

## 平成30年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	31	学校名	静岡県立清水東高等学校	記載者	浅羽保之
------	----	-----	-------------	-----	------

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	積極的な挨拶の励行	週1回の実施 すべての生徒がしっかりと挨拶できる	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒から積極的に自然体であいさつしてくれ、気持ちが良い。あいさつは全ての生活において基本。継続してもらいたい。</li> <li>学力だけでなく、社会性を身に付けることの大切さを教えていただきありがたいと思う。</li> <li>あいさつにもいろいろな形があるが、日頃の活動の成果がこうした形に表れていると感じうれしく思う。</li> </ul>
	事故、いじめ、トラブルのない学校作り	年間計画及びいじめへの対処の確実な実施 いじめ0件	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットトラブルも含め、根絶に向けて定期的なチェックをお願いしたい。</li> <li>いじめ0件は現実には困難な指標であると思う。「いじめへの適切な対応、早期対応100%」の方がよい。</li> <li>いじめ、トラブルが0件の背景には、人の気持ちを大切にしている生徒が多いことがあるように思う。生徒との面談などを通じた、きめ細かい指導の成果と考える。</li> </ul>
イ	質の高い授業の展開（充実した50分授業）	「授業が分かる」（80%以上） 「指導のレベルに満足」（80%以上）	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALの導入を考えると50分の効率よい構成が大切だと感じる。事前の準備を十分に、生徒のレベルに合わせた分かりやすく充実した授業をお願いしたい。</li> <li>生徒の理解度は高いと思う。SSHの取組も評価できる。垂れ幕での全国大会等への出場掲示は生徒の励みになるとともに、校名を高めることにもつながる。</li> <li>アンケート結果が目標数値より高くなっており、質の高い授業が確実に展開されていると思う。教員への信頼度が高く、良好な関係が築かれていることも評価できる。</li> </ul>
	SSHの充実	普通科課題研究の指導体制の充実、関連の全国大会へ出場、課題研究を英語で表現	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>本当に充実した取組が続いていることに驚いた。マンネリ化させることなく、新たな取組にチャレンジしてほしい。</li> <li>第4期の計画に沿って、さらなる研究・実践を継続してもらいたい。</li> <li>成果も着々と出てきており、これらの活躍ぶりをもっと一般にも広めるために宣伝してほしい。</li> </ul>
ウ	新大学入試への対応（英語外部検定の検討）	内容を充実させ確実に実施  国公立大学の合格者50%以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試改正の対応についての評価は難しいが、現状の大学入試の成績はアップしていると評価している。</li> <li>大変な対応が必要だとは思いますが、地域のトップ校として、次世代の大学入試で力を発揮できる生徒の育成を願う。</li> <li>これまでの進路指導に加えて、新大学入試に向けて情報収集に積極的に取り組んでいることは評価できる。これからは生徒たちにこれらの情報を的確に伝えていただきたい。</li> </ul>
エ	部活動の活動日、活動時間の見直し及び活性化	部活動終了時間厳守、完全下校19時30分の徹底 全国大会5部活 県大会10部活以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>文武両道は東高の旗印。練習効率のよい活動と学習との両立を期待している。</li> <li>効率的な部活動の運営と結果が伴うよう指導内容も工夫してほしい。部活動の練習時間が制約されるのはやむをえない。一層の練習内容の充実を望む。</li> <li>完全下校19:30は東高らしい取組で、続けてほしい。</li> </ul>
オ	時間外勤務の縮減、休暇取得の推進	部活動における休養日設定100%、早期退勤の確実な実施、勤務時間割振りの確実な実施、休暇取得促進日の完全実施	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>時短に向け、確実な実施を徹底してほしい。</li> <li>心身ともに健康で笑顔の先生方に生徒の前では立ってほしい。メリハリをつけた勤務の工夫で公私共に充実した生活を願う。</li> <li>働き方改革が叫ばれる中、いろいろな取組を検討し、試みていることは評価できる。教員が疲弊しないよう、これらの試みが完全に近い形で実施できるように取り組んでいただきたい。</li> </ul>
	業務のスクラップアンドビルドの推進	週休日、休日等の勤務時間外の取組を2つ以上減	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい教育施策が目白押し。業務の定期的な見直しと相互牽制により、効率化を進めてほしい</li> <li>業務の効率化を図る取組はすぐには改善されないだろうが、常に意識して取り組んでいくことが大切である。</li> </ul>